

とうにうん

第43号 08年6月2日

J R 東海 労 東 二 運 分 会

責任者 庭山 義輝

編集 教宣部

仲間とともに反転・攻勢に！ J R 総連 第24回大会

群馬県水上町で、J R 総連定期大会が開催されました。大会には、全国から多くの仲間が結集し1年間の闘いを総括し、今後1年の闘う方針を決定しました。

東海労からは、淵上地本委員長と加藤誠二さんが発言をしました。特に、加藤誠二さんは不当解雇撤回を求める反弾圧の闘いに、全国から寄せられたこれまでの支援に感謝し、更なる反弾圧の闘いと早期職場復帰を実現するために奮闘する決意を明らかにしました。

副委員長に萩原光廣さん・執行委員に加藤誠二さん

残念ながらわたしたちの職場は「新しい人事・賃金制度」によって、安心し、ゆとりを持って仕事ができる環境ではありません。「新しい人事・賃金制度」は同僚を競争させ、勝ち組と負け組の格差を益々拡大させるものです。

主任報告は「社員管理と業務管理」に関する報告を求めら、報告された人だけでなく、報告をした主任もいやな思いをしています。失敗や不十分だったことを「無かったことにしてくれ」、と言っているのではありません。

同僚同士を競争させることで労務管理の徹底をしているのです。「命令しなくても服従」が徹底され「規律＝制度が忠誠」を強要しているのです。これは認められない、と言っているのです。陰で笑っているのは誰でしょうか。

この職場を、仕事がしやすい職場に変えるのが労働組合の最大の課題です。それが組合員と家族にとって一番大切なことです。東海ユニオンは、会社に「それはおかしい」と言うことが、なんでも反対だと言いますが、本当にそうでしょうか。物を言わないのは労働組合ではありません。

組合員のみなさん！

萩原さんと加藤さんが新たな場で闘うことになりました。わたしたちが二人と一体となって職場で、仕事がしやすい職場づくりをしていくことが、二人に対する最大の支援です。共に闘い続けましょう。